

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



長年付き合う大切な学習技能

ゴールデンウィークが明けてから、数日経ちました。

学習は、とても良いペースで進むようになってきました。

理由は、ハッキリしています。

子どもたちの動き・反応が、輪をかけて良くなってきているからです。

指示や発問に対する反応は、日を追うごとに早くなっています。

ノートのドリルに書く字は、丁寧さが増してきています。

音読の声にも、少しずつハリが出てきました。

最近では、授業を始める前にノートや教科書の準備を進んで済ませる子も。

1つ1つの「変化」が、見えないながらも日々の授業の推進力となっていることは間違いありません。

良い調子で進んでいる時だからこそ！

スタートのこの時期に「仕組みづくり」を丁寧に行い、足元をきちんと固めて今後に向かいたいと考えています。

その一環として、4月から“あること”を教え続けています。

それは、鉛筆の「持ち方」です。

長時間机に向かう持久力を支える上で、「鉛筆の持ち方」は超重要な学習技能です。

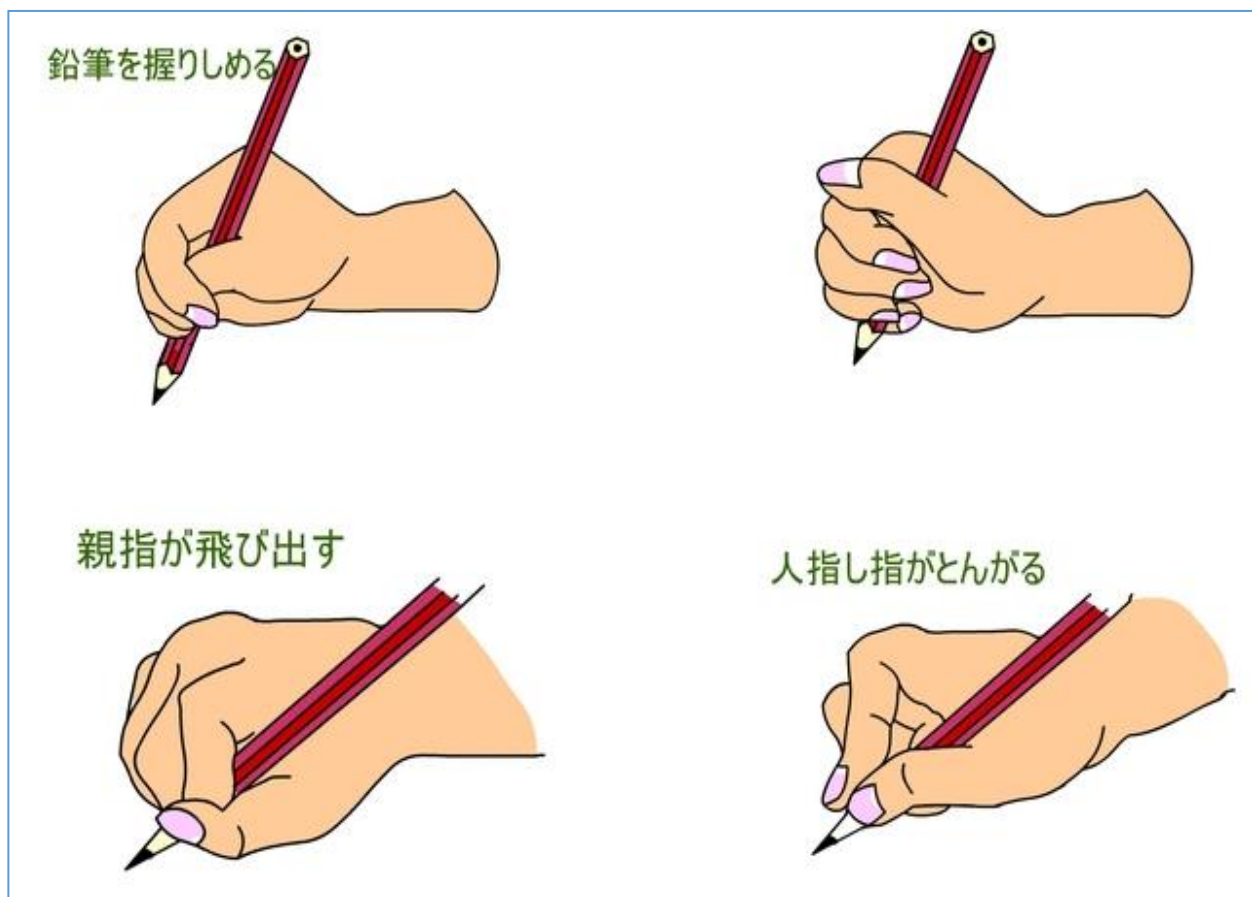
まだまだ、学年全体でも正しく鉛筆を持てている子は少数です。

それはつまり、何らかの癖がついてしまっている場合が多いということを表しているともいえます。

まず、どのような癖があるのかを説明してみます。。

下の絵がその例です。

握りこむように持っている場合や、人差し指と中指が離れている場合など、様々な状態があります。



正しい持ち方のポイントは、次の2つです。

- 三点支持ができていないこと。
- 手全体の力が適度に抜けていること。

「鉛筆の持ち方」は、これから一生付き合っていく極めて大切な学習技能です。

正しく持つことが出来れば、字形が整い、写生の精度が上がり、疲れにくくなるとともに学習した内容も残りやすくなります。

教室ではこの後、どのような練習をすれば正しい持ち方をマスターできるのかを教えているところです。

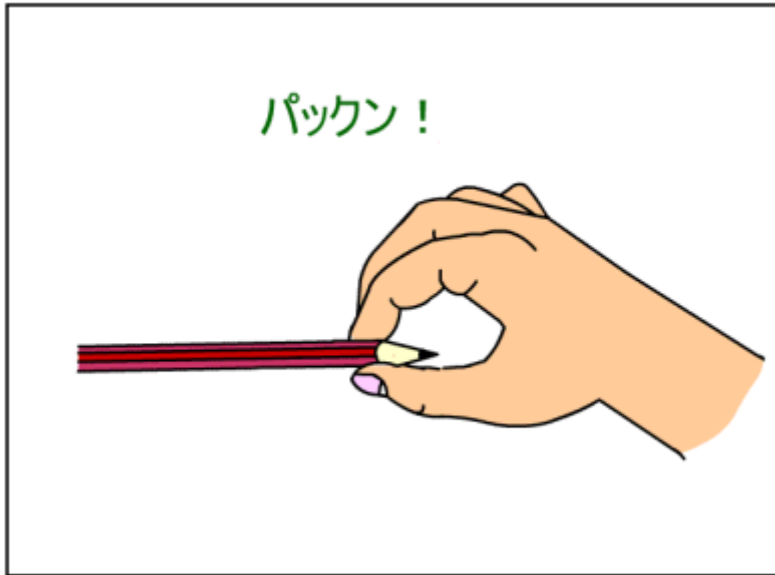
そのやり方は色々あるのですが、この紙面ではそのいくつかを紹介します。

正しい持ち方の練習方法としてお手軽なのは、「合い言葉」で教える方法です。

その合言葉とは、

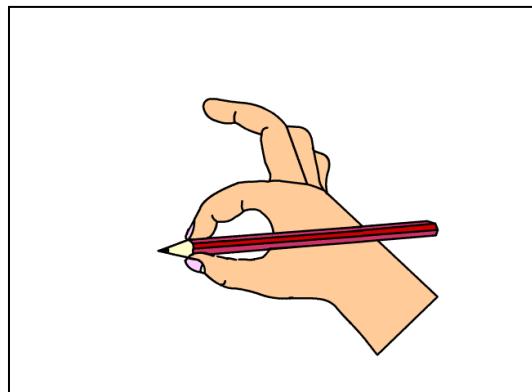
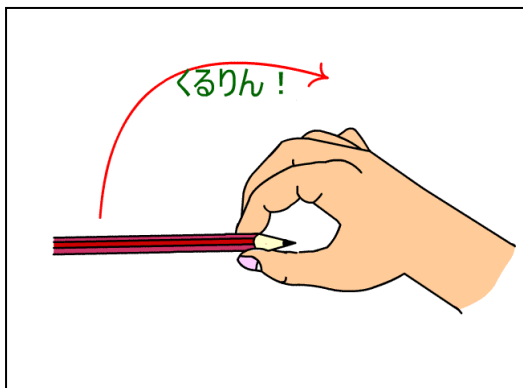
「パクン、くるりん、さぶとん、ぴたっ!」です。

実演しながら、以下のように教えます。



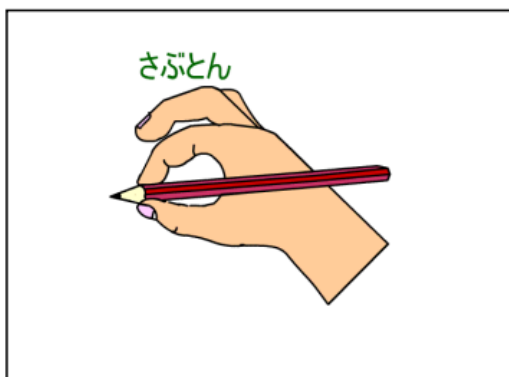
まず、自分の利き手の方に芯を向けて鉛筆を置きます。

そして、削ってある部分の少し上を、親指と人差し指で「パクン」とはさみます。



次に、鉛筆のはしを反対の手で持って 180 度回転させます。

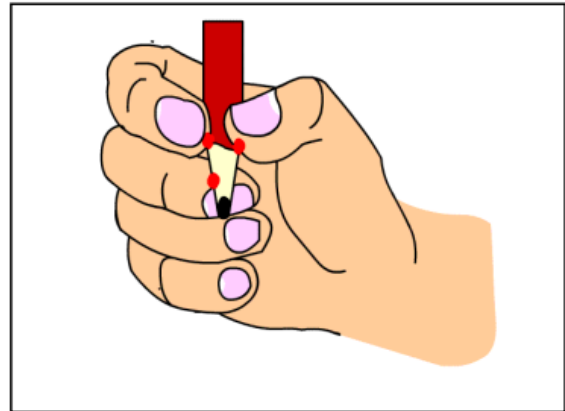
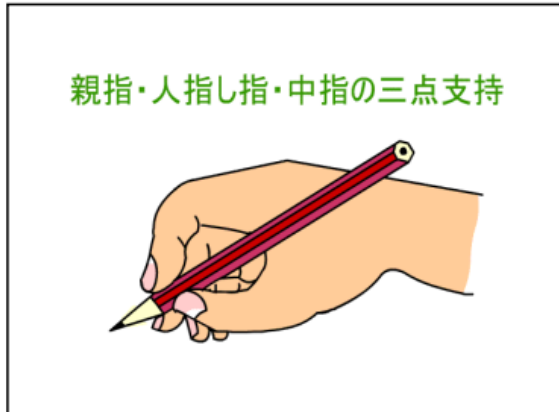
これが、「くるりん」です。



最後に、中指を鉛筆にぴたっとつけて、ざぶとんのように下から優しく支えます。

「ざぶとん、ぴたっ」です。

薬指・小指は、紙をそっと押さえる役割なので、鉛筆には触れません。こうして、下の「正しい持ち方」ができれば完成です。



つまり、親指・人差し指・中指の「三点支持」ができていれば、正しく持つことが出来ていると言えます。

一通り教えた後、合い言葉を使って自分一人で持ち方の確認ができるように練習していく予定です。

もちろん、ある程度の時間をかけて作られた“クセ”は、そう簡単には治りません。

気長に練習していく必要があります。

ですから、持ち方が崩れた場合は、合い言葉を使って繰り返し持ち直してみるとよいでしょう。

自分で持ち方を修正できるようになれば、今後も大いに役立つはずです。

少々のクセは、この合い言葉でなおすことが可能です。

しかし、これだけでは難しい場合もあります。

そこで、次の方法があります。

合言葉と個人練習だけでは、フォームの改善ができない場合もあります。

その際に有効なのは、「補助器具」です。

業者によって呼び名が若干異なりますが、「もちかたくん」と呼ばれる道具があります。

下の道具です。



特にクセの多い、指先の部分をフォローしてくれる道具です。

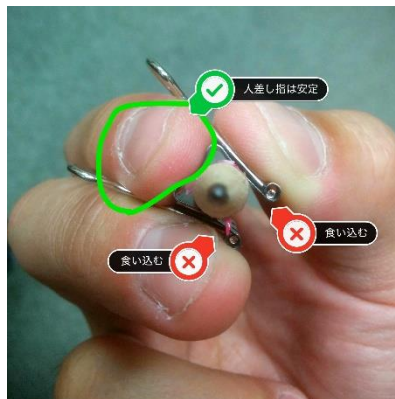
私は過去10年ほど、この補助器具を使って指導をしてきましたが、店によって取り扱っていないかったり、着脱が難しかったりといくつか難点がありました。

それを解決する方法が近年専門家より示されました。

ダブルクリップという、どこにでも売っている道具を使う方法です。

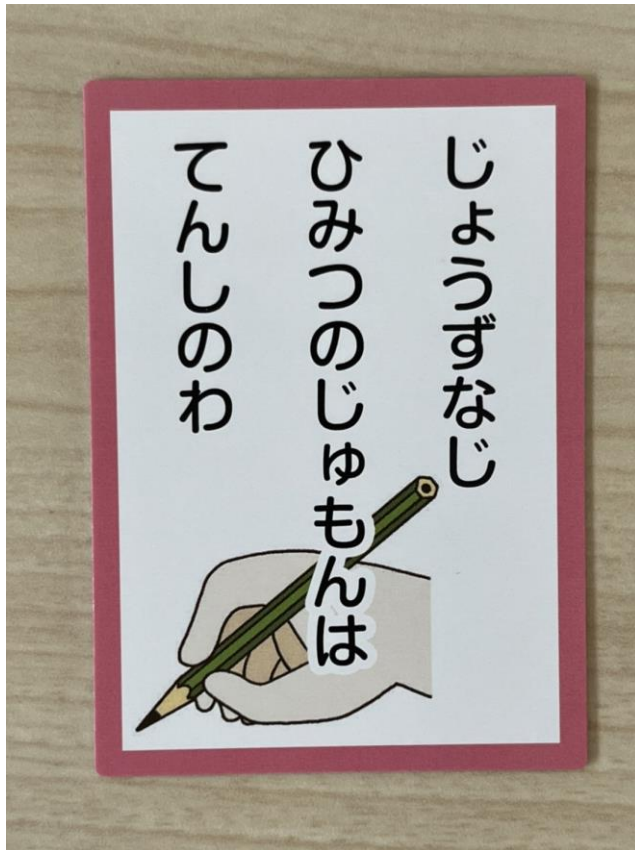
着脱も簡単、そして全国どこのお店でも買うことができます。

次のように使います。



三点支持が適度な刺激や持ちやすさと共に身につく優れた方法です。
ちなみに、程よく力が抜けている時は、人差し指と親指の所にきれいな「輪」ができます。

これを、「天使の輪」と呼んで、かるた教材を通して伝えていくところ
です。



ちなみに補助器具は、つけ続けることで持つのが大変に感じる子もいると思うので、現在は朝のモジュールの時間を限定的に活用して持ち方を練習中
しています。

一度身につけた癖や習慣を変えることは難しいものですが、じっくりと向
き合う中で大切な学習技能を育てていきたいと思えます。

ご家庭でも、折を見て確認していただければ幸いです。（文責：渡辺道治）

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](https://www.google.com)